第７章　計画の推進体制

7-1　事業の推進体制

≫多様な主体が一体となって目標の達成を目指すことが重要です

◆本計画の推進に当たっては、「市民」「交通事業者」「水俣市」が連携し、一体となって計画目標の達成に取り組む必要があります。

◆また、計画で推進する多様なパートナーとの連携では、“市民”という形だけではなく「施設関係者」「民間企業」「他分野の関連部局」などのそれぞれの立場から連携協力を得て、持続可能な地域公共交通網を再構築していきます。

表　関係する主体と役割

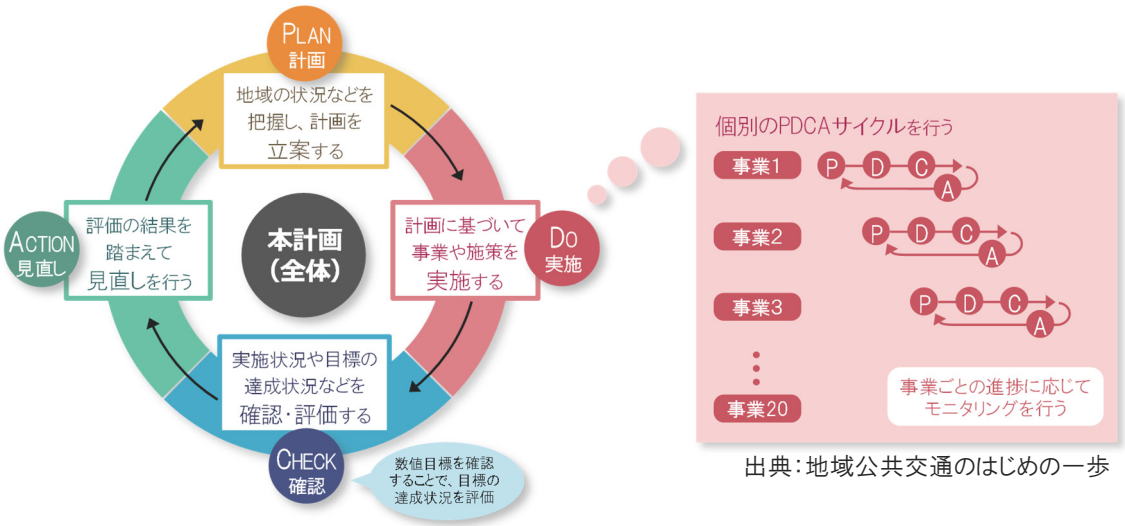
類型	主　体	役　割
活動主体	市民（居住者）	○利用者としてサービスを受け、積極的に生活での利用を考える ○自分たちにとって“使い勝手の良い”公共交通の形を考え、身近な公共交通の使い方や守り方を事業者・行政と考える（参画する）
	交通事業者	○安全快適な運送サービスを提供することを前提として、利用者のニーズを踏まえた運送や情報案内を提供する ○関係者と協力し、サービス向上や運行改善、利用促進などを行う
	水俣市	○公共交通の維持に向けた取組みの支援、市民のニーズ把握 ○一定範囲内での財政支援、利用促進に係る情報発信、利用啓発など
連携主体	施設関係者	○“市民”以外での受益者となる地域関係者として、身近な公共交通の積極的な利用、施設運営等への活用方法を考える ○公共交通の関係者と協力し、施設・公共交通の相互連携による利用促進企画などに取り組む
	民間企業	
	他の関連部局	
	来訪者	○観光等で本市に来訪（関係）した際の移動時に積極的な公共交通の利用を考える

7-2　事業進捗の評価方法

≫“トライアル・アンド・エラーの繰り返し”で事業進捗の管理を行います

（1）達成状況の評価と見直し

◆事業進捗の評価は、公共交通会議を中心として計画(P)・実行(D)・評価検証(C)・見直し(A)の実行サイクルに沿って、計画5年後の全体評価、１事業毎の個別評価を実施していきます。



出典：地域公共交通のはじめの一歩

図　PDCAサイクルのイメージ

（２）評価スケジュール

◆評価スケジュールは、事業ごとの進捗状況を踏まえつつ、個別の評価時期を設定します。個別の評価結果については、水俣市地域公共交通会議にて事業内容の修正やスケジュールの見直しを行い、計画目標年（2024年度）には計画の達成状況の確認と更新を行います。

■：評価年度　　表　評価スケジュール　　計画目標年

項目	年度	2020	2021	2022	2023	2024
基本方針１　市民にとって利用しやすい運行サービスの効率化						
目標１　市民の日常生活を支える地域公共交通の存続						
目標値①▶みなくるバス・乗合タクシーの年間利用者数		■	■	■	■	■
目標値②▶利用者１人当たりの公的資金投入額		■	■	■	■	■
目標２　路線維持の仕組みづくりと路線の廃止・見直し基準運用による持続性向上						
目標値③▶利用低迷路線の解消		■	■	■	■	■
基本方針２　地域公共交通に対する利用意識の向上						
目標１　市内における回遊手段の利用案内を強化						
目標値④▶自転車市民共同利用システムの自転車１台当たりの稼働率						■
目標２　高齢者を中心に公共交通の利用意識を転換						
目標値⑤▶運転免許返納特典の申請者数						■
目標値⑥▶モビリティマネジメントの実施数						■
基本方針３　地域の乗り継ぎ拠点における交通サービスの充実						
目標１　乗り継ぎ拠点における市民の利便性向上						
目標値⑦▶市役所庁舎における利便性向上を図る事業の実施数						■
目標２　来訪者の公共交通利用に必要となる情報案内を充実						
目標値⑧▶来訪者の公共交通の利用割合						■
基本方針４　交通事業者等との連携強化による地域公共交通の維持						
目標１　市民の外出目的を創出するための公共交通の利用促進企画						
目標値⑨▶公共交通の利用促進に関係者と協力した回数						■
目標２　市内のイベント・行事における公共交通の利用案内の強化						
目標値⑩▶イベントに合わせて地域関係者と連携した公共交通の利用促進企画						■

※毎年評価：水俣市地域公共交通会議を開催し、関係者間で情報共有を図り、事業の進捗状況について確認する
※目標年評価：事業の進捗状況及び設定した目標の達成状況を確認し、計画の2025年度以降の取組みを検討する

表　達成指標・評価方法

目標指標		目標値の考え方・測定方法	現況値（2019）	目標値（2024）
①みなくるバス・乗合タクシーの年間利用者数	考え	○過去の利用実績・人口減少等を踏まえて、前計画の「年間減少割合を-3.0%以下に抑制」を継続的な目標として設定	104,767人/年	約90,000人/年
	方法	○年間利用者数から対前年比を算出 ※利用実績は運行事業者が記録		
②利用者1人当たりの公的資金投入額	考え	○利用を高めながら運行効率の改善に取り組み、財政負担割合の低減を目標として設定	バス交通 881円 乗合タクシー 56,589円	現況値以下に抑制
	方法	○年間運行欠損額÷年間利用者数により算出 ※利用実績は運行事業者が記録		
③利用低迷路線（便平均2人未満）の解消	考え	○乗合交通として機能していない路線の運行改善・効率化を図ることを目標として設定	該当6路線	該当0路線
	方法	○年間利用者数から便平均利用者数を算出 ※利用実績は運行事業者が記録		
④自転車市民共同利用システムの自転車1台当たりの稼働率	考え	○回遊手段の利用案内を強化し、自転車利用の減少に歯止めをかける目標として設定	46.2%	現況値以上
	方法	○自転車市民共同利用システムの利用実績より稼働率を測定		
⑤運転免許返納特典の申請者数	考え	○高齢者の公共交通の利用意識を転換し、「5年以内に返納意思のある方」(市民アンケート)の割合分の増加を目標として設定	107人/年	149人/年
	方法	○運転免許返納特典の申請者数を測定		
⑥モビリティマネジメントの実施数	考え	○園児・高齢者などの幅広い層をターゲットとして、モビリティマネジメントに取り組むことを目標として設定	7回/年	10回/年
	方法	○学校・事業所やイベントで市または交通事業者が行った取組数を測定		
⑦市役所庁舎における利便性向上を図る事業の実施数	考え	○市役所庁舎の利便性向上として、バスロケーションシステムの導入、バス時刻表の設置、イベントに対応した公共交通情報の発信等	—	3事業
	方法	○市役所庁舎において公共交通に関連して取り組んだ事業を測定		
⑧来訪者の公共交通の利用割合	考え	○来訪者の目に触れる情報案内を行い、来訪者の公共交通利用の減少に歯止めをかける目標として設定	14.8%	現況値以上
	方法	○水俣駅、新水俣駅において公共交通を利用する割合を測定　※ヒアリング調査より		
⑨公共交通の利用促進に関係者と協力した回数	考え	○買い物施設、病院または温泉施設などを対象として目標を設定	—	2回/年
	方法	○施設と交通事業者、行政が協力して行った取組の回数を測定		
⑩イベントに合わせて地域関係者と連携した公共交通の利用促進の企画	考え	○交通事業者、施設関係者、市関連部局と協力して行う利用促進企画を目標として設定（春と秋のローズフェスタ等を想定）	0回/年	2回/年
	方法	○関係者と連携して行った利用促進企画の回数を測定		

発行　水俣市地域公共交通会議

本計画についてのお問い合わせは、水俣市地域公共交通会議事務局まで
（熊本県水俣市総務企画部企画課）
〒867-8555　熊本県水俣市陣内1丁目1番1号
TEL：0966-61-1607　FAX：0966-62-0611